

メード・イン・ジャパンの誇りを胸に、 高度な縫製技術で製品作りに取り組む

事業計画名 多種多様で複雑なデザインのノンアパレル製品の生産工程構築

有限会社 内野



取り組みの経緯

昭和50年代の旧波崎町（現神栖市）は「かばんの町」といわれ、人口3万5千人のうち、約千人がかばん製造に関わっていた。1989（平成元）年に「内野縫製」を創業し、ノンアパレル製品のバッグやポーチをメインに縫製加工・製造を行っている。

創業当時は受注した商品をただ作れば売れる時代だったが、98（平成10）年ごろから国内メーカーがこぞってコストの低い海外での製造に移行したことにより、町内にあった約50社のかばん製造会社



製造風景。従業員は20代、30代が中心。その他、自宅で作業をする内職スタッフもいる

の4分の3が廃業となった。だが、ここ2、3年前からまた高くても良いものが欲しいという消費者のニーズが増え、国内での製造へ回帰してきた。

こういった時代の流れを踏まえて、本補助事業を活用してコンピューターミシンを導入することにした。これにより、今まで対応しかねていた多様多彩化しているデザインの縫製を可能にし、顧客（メーカーの中間卸問屋）の要望に応えるように考えた。それに伴い従業員の縫製技術力の向上も目指す。

事業の具体的内容及び効果

一般ユーザーのニーズに合致した多様多彩で複雑なデザインは縫製が難しく、対応しかねていた。だが、コンピューターミシンを導入することにより、従来のミシンでは縫製が難しいとされていた薄物の生地も高精度で縫製できるようになった。このように、デザインに対して最適な縫製ができるため、生産可能な製品のバリエーションを広げ、見た目のきれいさ、縫製強度、耐久性など、従来よりも丁寧できれいな仕上がりを可能にした。

さらに、今までは、難度の高い縫製はベテランの従業員が担当していたが、コンピューターに最適なデータを入力してあれば、経験が浅い従業員でも縫製の操作が可能となった。このことにより、縫製前に幾度と繰り返されていた試作の回数が減った上、不良低減にもなって生産効率にもつながった。

スタッフのモチベーションも高まり、社内ミーティングでは、現場から積極的に意見を出し合うなど、より良い製品作りへの思いが生まれてきた。

事業概要

顧客ニーズに合致した多種多様で複雑なデザインのノンアパレル製品（衣服以外の縫製品）を生産するために、デザイン業務から縫製作業にいたる一貫工程を構築する。従来は縫製困難であったデザインの製品も製造可能にする。

有限会社 内野

〒314-0345 神栖市土合南3-8-2
TEL.0479-48-5233 FAX.0479-48-3522
http://www.u-uchino.com
資本金：300万円
従業員数：16人

バッグやポーチをメインとするノンアパレルの縫製加工会社。10～20歳代の女性向け製品を中心に、数百種類の製品を受注している。生地と生地の縫合に加えて、ネーム付けやワッペン付けなども行っている。



導入したコンピューターミシンは、タッチパネルで加工作業のデータを入力する

組みに縫製技術の高さが伝わり、縫製の難度が高い製品の新規引き合いが増えている。

今後は、日本製品ならではの高品質な製品を作るため、導入したコンピューターミシンを駆使して、従業員全体の技術レベルを向上させ、さらに新製品を短納期で提供できるように対応していきたいと考えている。



担当するのは10代、20代に人気のブランドのポーチやバッグ。薄地や縫い目が裏面にならないように縫製するなど、難度の高い縫製もコンピューターミシンだと容易に作業できる

事業成果の活用・今後の取り組み

直接取引先はノンアパレルの中間卸問屋である。縫製する同じ製品を他の加工会社へ数力所発注しているが、製品の仕上がりのきれいさは群を抜いており、取引先からの評判がよい。毎日行う社内ミーティングでは、従業員同士が積極的に意見交換し、製品のよりよいデザイン、さらには効率的な縫製を社長はじめ従業員が一丸となり目指している。製品を作るだけでなく、ものづくりのプロとして取引先に考えを伝え、より上質な製品作りを提案する。この取り

内野 正則さん

有限会社内野
代表取締役



創業以来、縫製技術を磨き続け、今では世界のトップアパレルブランドを支える確かな品質であると自負しています。しかし、技術は次代に継承できなくては廃れてしまいます。世界に誇れるメード・イン・ジャパンの技術を継承し、お客様に高品質のサービスを提供していきたいと考えております。